

「関節リウマチにおける炎症性滑膜炎、軟骨破壊、サイトカイン産生を制御する

分子生物学的メカニズムの検討」へご協力をお願い

—2010年4月1日～2019年12月31日までに当科において

関節リウマチに対して手術を受けられた方へ—

研究機関名／研究機関代表者名

岡山大学病院

前田嘉信

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

伊達 勲

責任研究者

岡山大学学術研究院医歯薬学域 整形外科学

准教授

西田圭一郎

分担研究者

岡山大学病院 整形外科

講師

古松 毅之

岡山大学病院 整形外科

助教

那須 義久

医員

堀田 佳史

医員

浪花 崇一

岡山大学学術研究院医歯薬学域 腎・免疫・内分泌代謝内科学

助教

松本 佳則

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 整形外科

大学院生

木曾 洋平

1. 研究の意義と目的

関節リウマチ、変形性関節症などの関節の治療研究は進んでいますが、未だ病気の原因は完全に解明されていません。関節リウマチは免疫の異常によって活性化された炎症細胞から、サイトカインやケモカインが異常産生されることで生じます。近年、細胞外小胞の一種であるエクソソームやアダプター蛋白質である SH3BP2(3BP2)、リンパ腫腫瘍細胞マーカーである CD30 や膜貫通型蛋白質である ADAM12 がこれらの病気と深く関係していることが報告されており、これらのメカニズムの機能を解明することが、上記の病気の病態解明および治療において大きな役割を果たす可能性が示されています。またこのような関節内の病態には骨髄内の細胞も深くかかわっている可能性があります。そのメカニズムには不明な点が多いとされています。この研究目的は、関節リウマチ患者さんの外来または手術中に得られた廃棄予定の関節液、滑膜組織、残血清、骨髄、軟骨組織などを測定し、患者さんの病態における特徴を明らかにし、今後の病態の解明や治療について検討していくことです。

2. 研究の方法

1) 研究対象：

2010年4月1日～2019年12月31日までに当科において、RA または OA と診断された患者さんのうち、関節リウマチに対して手術を受けられた方が対象です。

2) 研究期間：

2018年1月26日（倫理委員会承認後）～2025年3月31日の予定です。

3) 研究方法：

採取された検体は、岡山大学整形外科内の研究室で解析を行います。カルテ情報からは、病気、年齢、

病歴、病気の重症度、関節の部位や損傷の程度、X線画像、CT画像、MRI画像、手術記録などを使用し、関節液、滑膜組織、残血清の解析結果と照らし合わせて結果の妥当性の検討を行います。

4) 情報の保護：

調査情報は、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科生体機能再生再建学講座整形外科の医局で厳重に取り扱います。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。保存期間の終期は、研究終了後5年間の予定です。なお調査結果は、個人を特定できない形で関連の学会および論文にて発表する予定です。

この研究にご質問等がありましたら下記までお問い合わせ下さい。御自身や御家族の情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2024年6月30日までの間に下記の連絡先までお申出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様には不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学病院 整形外科

氏名：西田圭一郎・那須義久

電話：086-235-7273 ファックス：086-223-9727